

平成 30 年 8 月 31 日

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

学校法人 杉野学園
ドレスメーカー学院
学校関係者評価委員会

平成 29 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1.学校関係者評価委員

- ・福永 成明氏 ファッションビジネス学会 理事
一般社団法人 日本アパレルファッション産業協会 委員
有限会社 ファッションリンクス 代表
- ・櫻井 武美氏 横浜ファッションデザイン専門学校 理事長
卒業生
- ・伊藤 雅彦氏 マックスレイ株式会社 顧問
合同会社グリシーヌインターナショナル CEO

2.学校関係者評価委員会の開催状況

- 第 1 回委員会 平成 30 年 2 月 23 日 (金) 14 : 00 ~ 17 : 15 (場所 本校舎 3 階 会議室)
第 2 回委員会 平成 30 年 3 月 13 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 30 (場所 本校舎 3 階 会議室)

3.学校関係者委員会報告

別紙のとおり

以上

教育目標と本年度重点目標の評価

今年度の重点目標は服飾造形科とファッションビジネス科の職業実践専門課程の認定である。9月に申請をし、2月27日付で認定を受けた。これで対象となる全学科が認定を受けたことになる。

【関係者評価委員所見】

職業実践専門課程が認定され、産学連携授業が充実し成果が出ていると感じる。

【課題・対策】

30年度からは、第三者評価への準備を行う必要がある。

基準1 教育理念・目的・人材育成像

・教育理念については入学案内等で告知し、創設者の杉野芳子先生の建学の精神に基づき①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する力のこの3点を教育の理念に掲げ、「いい服には法則がある」をキャッチコピーとしてかかげながら教育にあたっている。

・各科の育成人材像（別紙配布）

■服飾造形科（2年制）

販売職（服作りの技術を学ぶことで、着心地や服の価値を伝えることのできる販売員）

縫製職（服作りの理論と技術を身につけている）

アパレルデザイン科への進学

■ファッションビジネス科（2年制）

販売職（ファッションと流通機構を理解し、IT技術と提案力のある販売員）

■アパレル技術科（3年制）

パタンナー

■高度アパレル専門科（4年制）

総合職、企画職、デザイナー（クリエイション力とビジネス知識を兼ね備えた企業デザイナー）

■アパレルデザイン科（進学課程 1年制）

デザイナー（造形知識に裏付けされた、豊かな感性と表現力のあるデザイナー）

【関係者評価委員所見】

第3者からみてドレメらしさ、カラーがみえてこない。ドレメを強調するものがあってよいと思う。芳子先生は知名度が高くないが、もっと有名になってよい人であると思う。ここはPRして

ドレメらしさとリンクさせ、有効活用すべきではないか。

【課題・対策】

ドレメらしさをどのように作り上げるか検討していきたい。

基準 2 学校運営

学校運営は、私立学校法及び寄付行為の規定に基づき理事会、評議員会等を開催し、決定した運営方針・事業計画書を実行している。その後、4月当初に開催される学園の全体会議（教員・職員）において周知徹底している。

本年度SDの規程を策定した。教員は理事長と院長で相談して必要な研修を行っており、事務局では理事長と局長と相談しながら行っている。

【関係者評価委員所見】

SDの規程が策定されたとある。アパ産協でも、若手教員研修を行っている。ドレメも数名参加して好評であると聞いているので、30年度も企画する予定である。

【課題・対策】

年間計画まで至っていないので、来年度は年間計画が立てられるようにしたい。

基準 3 教育活動

各科長より自己点検・評価報告書にて説明

【関係者評価委員所見】

課を選ぶのに高校生が迷うのではないかと感ずる。職種の明確化、また大学と専門学校との違いを明確に示す必要がある。

ファッションビジネス科の授業は学生が多岐にわたっているので混乱するとあるが、これは関係図を作るなどビジュアル化する必要がある。

SDに関してだが、先生方は忙しく物理的な時間がとれないと思う。普遍的なカリキュラムがあり、そこに新しい要素を入れていかななくてはならない。この新しい要素として「今」を知ることが大事であり、それを教員が共有することが不可欠だと思う。クリエイション、ビジネス、テクノロジーなどの今の状況を教員が個々に知っているだけではだめで、それを共有する仕組みを作

るべきだと思う。

ビジネス科は EC の教育をもっと充実させるべきだと考える。

【課題・対策】

大学との差別化、各学科の特徴を高校生に対してより明確にする必要がある。

2 年生の学科では販売職、縫製職、3 年以上の学科はデザイナー、パタンナーなどの専門職と総合職を目指し就職するという目標は明確であるが、高度アパレル専門科とアパレルデザイン科が同じデザイナーを目指すので、指摘の通り、わかりにくいかもしれない。

ファッションビジネス科は来年度に向けて学生が分かりやすいように学びのビジュアル化を図る必要がある。現在特別講義として EC の教育をおこなっているが、更なる検討の必要がある。

教員間での時代の変化における情報の共有や、新しい事を勉強するという意識は、常に忙しいので今後の大きな課題である。

基準 4 学修成果

「自己評価報告書」に基づき説明

【関係者評価委員所見】

なし

【課題・対策】

卒業生との関係を教員個人に任せている。

卒業生アンケート等も実施していない。

組織として同窓会が機能することが必要であり、課題と考えている。

基準 5 学生支援

学生に対する就職支援は行っており、今年度は 100% を達成することができた。

奨学金は充実している。

【関係者評価委員所見】

学生支援では、学生一人ひとりに目を向けられるとして少人数でメンタルケアをしっかりとしていることをアピールすれば学生募集にもつながるのではないかと。

また専攻分野不適應ということを一度研究するのがよいと思う。

【課題・対策】

専門のカウンセラーが相談にあたっている。

専攻分野不適應について、ファッションビジネス科はカリキュラムの検討を、全体としては転科を検討していく必要がある。

基準 6 教育環境

・学外実習は企業訪問を実施するよう各主任に促している。インターシップは随時、30 年度を目指し各科で検討して行っている。

海外研修等については、充実した内容で高い成果を上げている。

・防災に対する体制としては、災害対策本部制を設け、災害に対する訓練を職員、教員及び学生を含めた訓練を行っている。

防災体制の充実と保険等も整備され、もしもの時の備えは万全ではないかと思われる。

【関係者評価委員所見】

・デジタル環境の整備は急がないといけない。教育側で社会とギャップができてしまうと就職が大変になる。デジタル環境は重要である。

・インターンシップは企業が嫌がるという問題がある。インターンシップのやり方を企業側がわからないという問題があるのではないかと。以前ワールドとやっていたときのマニュアルを参考にし、てやれるのではないかと。

【課題・対策】

30 年度に Wi-Fi 環境を整備するための予算を計上している。

就職部が大学で実行しているインターシップのマニュアルがあるので、30 年度からは、就職部との連携を綿密にとってインターシップを充実させていく。

基準 7 学生の募集と受入れ

29 年度入学者数は昨年度に比べて減少した。30 年度は現時点で若干増加しているが、定員には満たないので、充足のために教育の内容の充実、オープンキャンパスの工夫に一層努力する。

【関係者評価委員所見】

・HPは「強み」「何が身につくか」を意識して前面に出す。

高校生には華やかな場面を見せるべきである。

リアルを見せることがよい。

・学生募集に企業を使っているコストもかかっている。その費用対効果を検証することは大事である。

・ガイダンスについて記述しているが、営業が有効であるか、どのくらい戻りがあるのかを学校として抑えているか。行った先の高校生が体験に来るか来ないか、学校に何名来たかなど数を把握すべき。ただ出かけて行って説明してくるだけでは意味がない。

留学生は日本人の学生にも良い刺激となるプラス面もある。

宣伝費をかけてもう少し積極的にとり組む姿勢が必要ではないかと思う。

【課題・対策】

本年から、出願者獲得のための会議である「学生募集実行委員会」を広報部と教員で開催している。月一回の頻度で開催しているので、連携も綿密になり、新たな気持ちで学生募集に取り組んでいる。

本学院はHPがわかりやすく表現できていない。また、SNSの発進力も弱い。30年度の「学生募集実行委員会」や「自己点検・自己評価委員会」で検討をする。

留学生については昨年もこの委員会で指摘を受けた。その後積極的に検討をしていない。

基準 8 財務

平成 26 年度以降は支出超過となった。これは、本学の収入の大部分を占める学納金の減少によるところが大きい。平成 28 年 3 月に杉野学園中期計画を策定した。本学院は、この中期計画に沿って平成 32 年度までに入学定員を確保し、収支均衡を図る。

【関係者評価委員所見】

・支出超過が続いており、経営判断指標でイエローゾーンにあるといった記述がされている。

・高校生を集めるのは大事だが、原点の洋裁学校に戻り、一般の人を対象にした講座も新しい財源になるのではないか。そうした学校で成功している例がある。

【課題・対策】

原因については、高い人件費依存率が考えられる。これは、人件費が高いというわけではなく学

生数が減少しているにもかかわらず、実習やクラス編成の理由で教員・職員を減らせないことが原因である。30年度は授業内容の改善を進め、学生募集活動をより強化し、入学者の増加を図ることによって、事業活動収支を改善することが急務である。

基準 9 法令の遵守

法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則等を、法令、設置基準に基づき策定している。

【関係者評価委員所見】

セクハラについては記述が漏れている。セクハラのみではなくパワハラなども可能性があるので、検討することが必要である。

【課題・対策】

ハラスメントは防止対策委員会が開けるように整備されているが、教職員の意識も重要なので、強化項目と位置づけて、30年度はハラスメントの教職員研修を行う予定である。法や制度の改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。

基準 10 社会貢献・地域貢献

社会貢献は環境科学やリメイクなどサステナブルの授業と取り組んでいる。

地域貢献は品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。

地域の小学生を対象に、服飾のものづくりの楽しさを知ってもらうイベント「ドレメ・キッズ・スクール」を開催している。

国際交流は積極的に行っている。

【関係者評価委員所見】

CSRとして前向きなメニューを作る必要がある。

【課題・対策】

環境科学やリメイクなどの授業と取り組んでいるので、前向きな取り組みとして30年度は企業のサステナブルな事業とも連携を図って行く予定である。